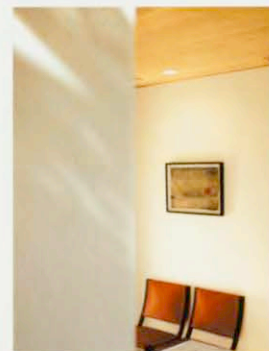
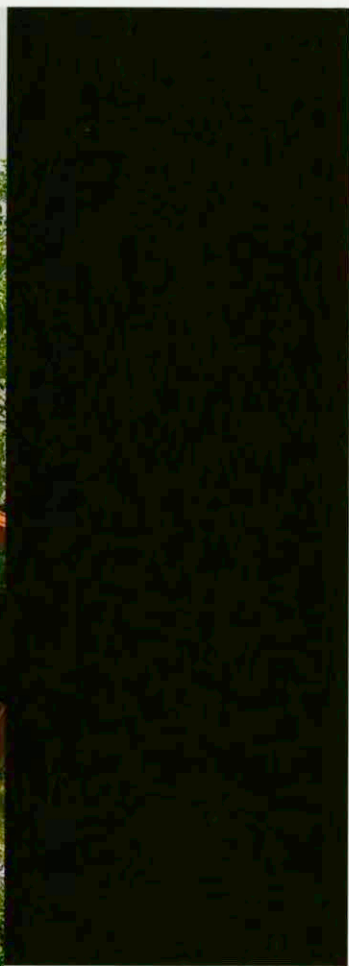


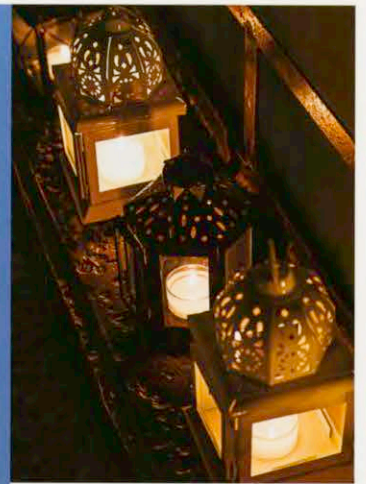
- 1.隣接したテラスと繋がるように庇と天井の素材を統一したダイニング。テラスの植栽が落とす柔らかな影も、テラスとダイニングを繋ぐ。
- 2.キッチンとダイニングの仕切りを開放せば、テラスまで吸い込まれるように視線が抜ける。
- 3.間接照明に照らされた夜のリビングは温かさがあがり、薄暮の空の色に一層映える。
- 4.リビングを囲むテラスの植栽は、視線をシャットアウトすると共に、緑豊かな空間をつくる。
- 5.1階と2階を繋ぐ階段室。それぞれの階に、トップライトから取り入れた光の変化を楽しむ。
- 6.地下にあるゲストルームは、ドライエリアの上部から入る光により、地下とは思えない明るさ。





Luxury Interior

インテリアでつくる上質空間





Luxury Interior

インテリアでつくる上質空間



HOW TO MAKE **OUT SIDE LIVING**

これが理想の アウトサイドリビング！ 「豪邸のテラス」 の作り方

広々としたLDK、シアタールーム、吹き抜けのエントランス…。豪邸の条件はいくつかありますが、今求められているのは「豊かな屋外空間」。幣誌の豪邸特集でもお馴染みの、建築設計事務所バケラッタが手がけた事例から、「豪邸のテラス」の作り方を考えます。

設計／建築設計事務所バケラッタ 撮影／下村康典

122-123でテラスのプランを分析している。都内の高級住宅街に建つ80 houseのテラス。ロの字型の建物ゆりヒンクに隣接している。パオラレンチの家具がアクセント。



2 都市のビル群を望む屋上のリビング

ビビッドな色使いで
華やかさを演出する

都内の高級住宅街にある地下1階、地上3階建ての大規模な住宅の屋上。周囲に高い建物はないため、遠くのビル群へと視線が抜けるように、家具を配置して屋外のリビングをつくっている。家具を置いたデッキは、ファイバーと木粉を混ぜた褪色・劣化のほとんどないもの。周囲にグランドカバーの植物が植えられている。大きなL字型のソファは、ドイツのデドン製。パーソナルチェアはイタリアのパオラ・レンティのもの。L字型の壁と開口で風を、大きな parasol で日差しを遮っているの、快適に過ごすことができる。デッキのコーナーに3m以上の鉢植えのグリーンを置いて、緑に囲われているような心地よさをつくり出した。全体のトーンは、グリーンや青空に映えるビビッドなオレンジ。ラグがテラスをより部屋のような雰囲気になっている。

data

- ・ 設計 / 建築設計事務所バケラッタ
森山善之+竹内典子
- ・ 延床面積 / 590㎡
- ・ テラスのあるフロアの面積 / 17㎡
- ・ テラス面積 / 29㎡



OUTSIDE DINING

5 天井と照明のある、半屋外のダイニング

天井高をあえて抑えて
コージーな食の場に

p.112-113、122-123で紹介している豪邸のアウトサイドダイニング。2階のキッチンとつながっている。天井のダウンライトはキッチンと同じデザイン。壁面のラフに張った石の壁も室内と同じもの。植栽は手すりの前に低いものを並べて、空への視線のヌケの妨げにならないように。室内の心地よさと、屋外の開放感を併せもったアウトサイドダイニングといえる。写真には写っていないが、左に小さなシンクをビルトインしたキッチンカウンターが配されている。主役の家具はイタリアの高級家具ブランド、パオラ レンティのもの。落ち着いたグレーと発色のいいパープルの組み合わせが絶妙。椅子8脚のうち、2脚をアームチェアにすることで、屋外のラフな雰囲気表現している。奥の壁面の前にはパーソナルチェアを2脚並べて、ちょっとしたくつろぎの場も演出。

data

- ・ 設計 / 建築設計事務所バケラッタ
森山善之+竹内典子
- ・ 延床面積 / 960㎡
- ・ テラスのあるフロアの面積 / 245㎡
- ・ テラス面積 / 61㎡

ダイニングセットやプランターに合わせて、テーブルコーディネートをグレートーンに。キッチンとひと続きになっているので、食器類のセッティングや配膳・片付けもしやすい。



Green & Planter

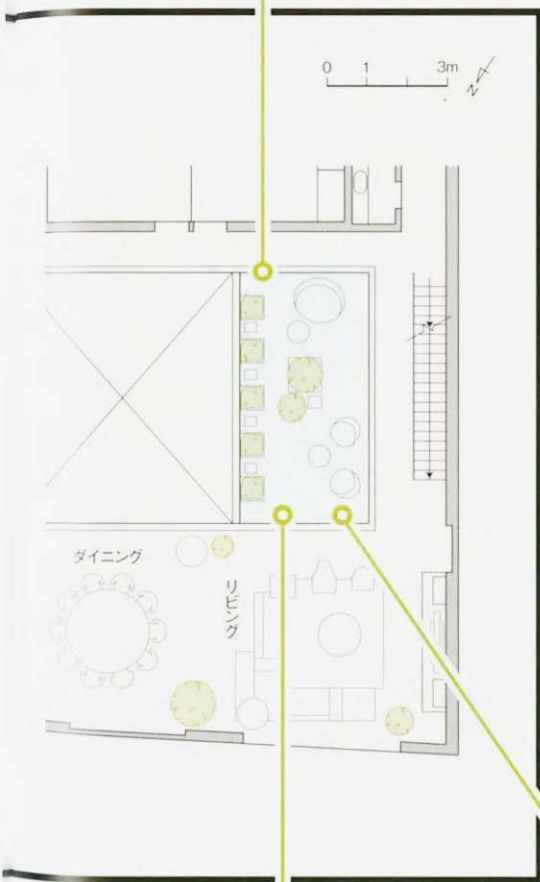
グリーン&プランター

「屋外のリビング&ダイニング」、両方のフェンスに沿って、プランターを規則的に配置。グリーンが壁ができ、部屋のような落ち着いた雰囲気とテラスの緑量をアップしている。植物はアスパラガス。丈夫で発育もよく管理しやすい。細く細かな葉が、ソリッドなテラスと好相性。



p.112-113・121 の 過ごすための「豪邸のテラス」を分析!!

アウトサイドリビング&ダイニング——。屋外に2つのくつろぐ場所をもつ SO houseは、過ごすための豪邸のテラスの条件をすべて満たしている。



Glass Ceiling

ガラスの天井

p.112-113の写真右上のように、リビングテラスの上、約7mの高さに開口と同じ強化ガラスの天井を設置。天井が高いので、閉塞感はない。天井のフレーム部分の目立たない位置にスポットライトを設置。風が強くなければ、雨でも濡れずにテラスで快適に過ごすことができる。



Furniture

屋外家具

屋外家具はイタリアの高級家具ブランド、パオラ レンティのもので、室内の家具とラグジュアリー感を揃えている。写真のモデルは「ニド」。クッションのカバーは撥水性。中材は透水性があり、機能性が高い。奥に大きなソファを置いて、2つのくつろぎの場をつくっている。

ビビットな色の家具がモダンな家の彩りに
都内有数の高級住宅街に建つ SO house。建物は延床面積が約960㎡の4層で、テラスはLDKと同じ2階にある。「屋外のリビング」はLDKの南側。室内のミニソファのソファのシックな色とは対照的に、ビビットな色使いのパオラ レンティのバーソナルチェアを選び、室内とは異なるラグジュアリーな世界をつくっている。フロア全体がガラス張り、屋内外のリビングが同時に視界に入るブラ

ン。2つのスペースのテイストが異なるので「眺める楽しみ」もある。開放感が損なわれないよう、テラスのガラスの天井高を約7mに設定している。「屋外のダイニング」はキッチン南側にある。屋外の天井を室内と同じ高さに。屋外のキッチンもあり、部屋のような雰囲気。8人掛けのダイニングセットは、屋外のリビングと同じパオラ レンティのもの。両スペース共にグリーンをたっぷり配置。全体が内開きの字型のプランだが、テラスが自然の心地よさを住まい全体にもたらしている。



Brand History

1994年、グラフィックデザイナーだったパオラ・レンティが設立した家具ブランド。特徴は、研究と開発を重ねた独自の素材とパオラの繊細な感覚を生かした色。2003年発表の屋外家具は、従来にないエレガントなデザインで、大きな話題に。現在、メダを拠点に世界へ向けて家具を送り出している「パオラ・レンティ」は、アルフレックスジャパンが取り扱う。

今年完成したばかりのショールームの屋外スペース。極力木を採採せずに造園した。大きな台形のテント「アラ」の下にソファ「オルランド」が。

Part 1

PAOLA LENTI パオラレンティ
 その最大の魅力は、「鮮やかな色」と「オリジナリティ」!

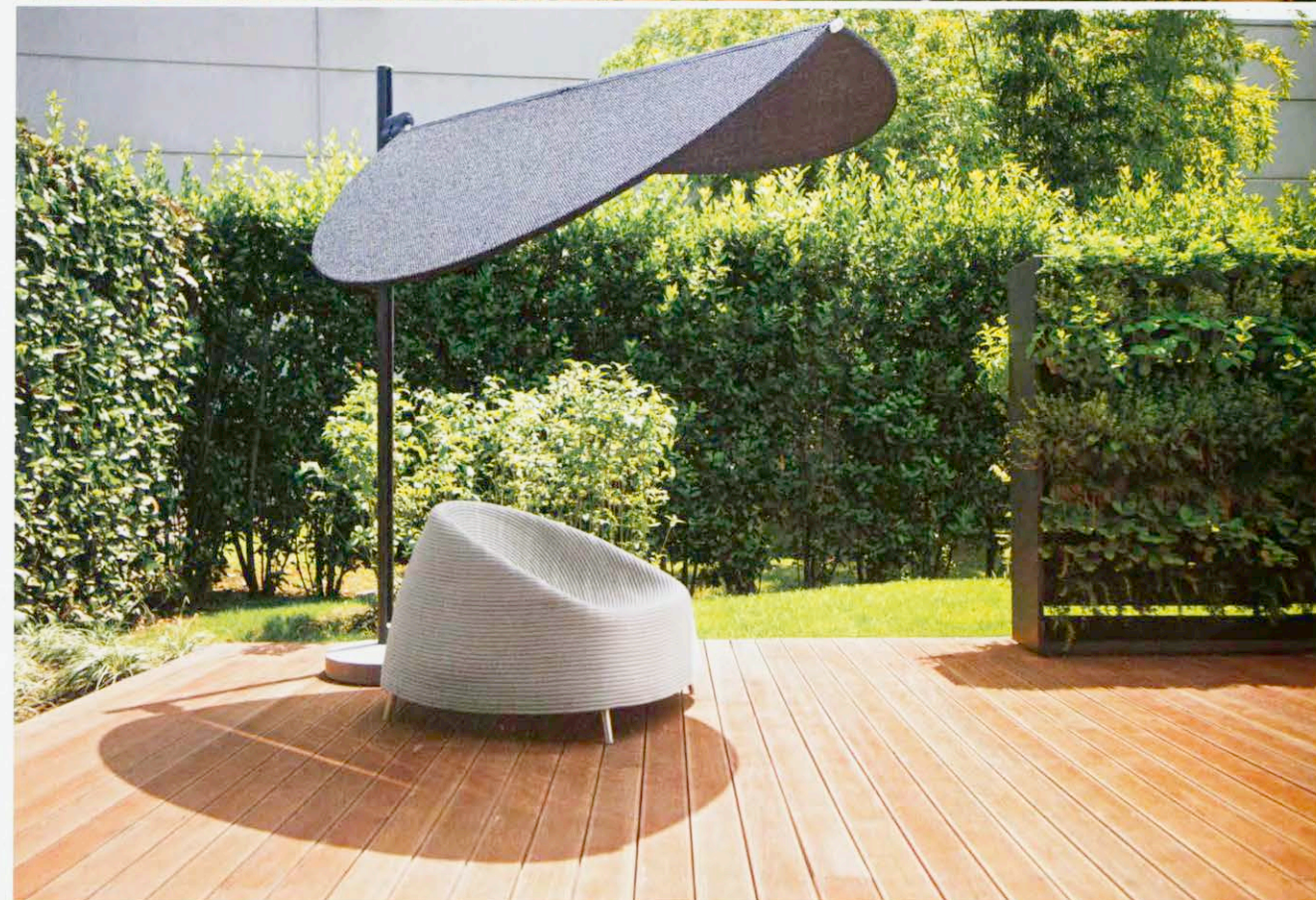
ミラノ郊外の街・メダ。住宅街の中にあるオフィス&工場の裏手へ回ると、突如現れる広いテラス。豊かな緑と白い花々に囲まれて、数々のモダンな屋外家具が静かに個性を主張しています。完成したばかりの屋外ショールーム——そこはまさに、現代の“秘密の花園”。

ほかにはない、鮮やかでエレガントなアウトサイド家具で人々を魅了するパオラ・レンティ。心地よい「庭」で、そのラグジュアリーな秘密を探りました。

●お問い合わせ / アルフレックスジャパン ☎0120-33-1951
 ※日本で取り扱いのない商品もございます。

パオラ レンティのミラノ郊外のショールーム

鮮やかなのに深みがある、絶妙な赤のファブリックを用いた低めのチェア「サンド」。テラスをつくる前からここに生えていたイチジクやナラなどの樹木が、自然のバラソルを形づくる。



バラソル「オンブラ」は太陽の動きに沿って傘の角度が変えられ、昇降もできる機能的なアイテム。ここでは、チェア「アフラ」を組み合わせて、庭で過ごす1人の時間を提案していた。

—— 広いテラスに美しい家具が置かれている

さまざまなテントやバラソルが複数設置されており、休憩時間にスタッフが集うこともあるそう。屋根があることで過ごせる場に、植物の壁にラウンジチェア「アミ」のブルーが映える。



テラスの入り口付近に配置された、フレッシュな黄緑色が目を引く防水ポリウレタン製のソファ「ベンチ」。スティール製の頑丈なテント「カバヌヌ」はグレーの塗装でシックな雰囲気。

キウイの木のパーゴラが心地よいダイニングコーナー。屋外用テーブル「サンセット」とスツール「ヘロン」は自然素材を使いモダンな形を表現。

美しい色、オリジナルの素材、メイド・イン・イタリア——特別な家具



自然がインスパイアされた美しい色を用いた家具を提案。オレンジやブルーなど、華やかな色を加えることで、テラスがぱっと明るくなる。



Product

庭やテラスがラグジュアリーに!
色合わせを楽しみたい屋外家具



スツール
「Toton(トトン)」
φ480×H460mm
¥144,000~



左アームソファ「Frame(フレーム)」
W750×D1570×H700・SH310mm
¥546,000~ ※オプションクッション除く



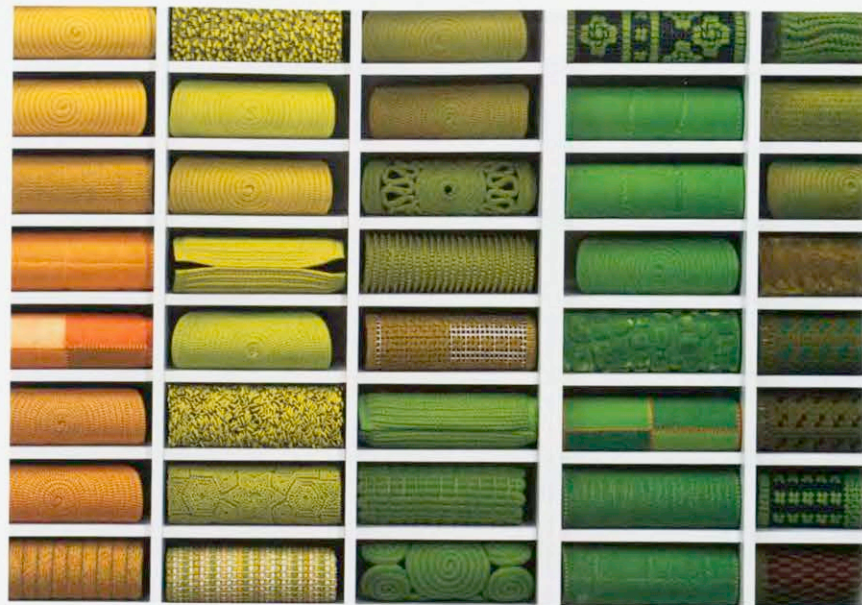
ラグ
「Crochet(クローシェ)」
W1000×D4000mm
¥1,839,000
※サイズはカスタマイズ可能



チェア
「Kiti(キチ)」
W576×D603×
H860・SH475mm
¥218,000~



ソファ「Ami(アミ)」
W900×D730×H790・SH370mm
¥748,000~ ※写真は屋内用素材を使用
以上、すべてパオラ・レンティ(アルフレックスジャパン)



ショールームの一角にはたくさんの生地見本が。複数色の糸を織り合わせて布をつくることで深みのある色を生み出す。

「風や光、花の色、葉擦れの音や蝶の動き…
自然は完璧であり、人間には作り出せないもの。
家具を生み出すときに、それを忘れてはなりません」

——— パオラ・レンティ

と云う。最初は大変だったが、自分を捨て、自分を忘れることで、スタッフもそうした和をつくることのできるようになった。日本を2度訪れたことがあるパオラさんは、書道や生け花からもヒントをもらったと言いつつ、こうして考え方には日本文化の影響も入っている。

フィロソフィを大切にしている一方で、パオラさんはビジネスも忘れてはいない。社員を幸せにするという責任も感じている。2008年以降、世界の家具市場は収縮したが、パオラ・レンティはほとんど影響を受けず、売り上げを伸ばした。そのいちばんの理由は、「パオラ・レンティにしかない家具だから」といえるだろう。自分の好きな服のような優しさ、色、美しさ——それを求めてやまない人たちがいる。

「ラグジュアリー」とは「クオリティ」という確信

1994年に創業。ラグからスタートし、室内家具もつくっていたが、2003年に屋外家具を発表。一気に世界のマーケットへ広がった。「ア

ウトドアをインドアのように」——それが屋外家具のコンセプトだった。当時、他社の屋外家具にはリビングに置けるようなものはない。パオラさんは、まず素材から始めた。オリジナルで開発される高品質な素材を用い、編むという手仕事での製作。ハイテクと手工業の融合だ。今も環境・気候・長持ちすることに配慮して素材を決めている。将来テックノロジーが進んだら、同じデザインでも新しい素材を使うだろう。それは変わるのではなく、アップデートするということ。

「贅沢? いいえ、真面目なやり方です。家具は役に立つから買う、人にとって心地よいかから買うというものでなくては。家具は人を超えてはいけません。私たちが20年たつて、やっとそれが表現できるようになりました。

「ラグジュアリー」とは「クオリティ」なのだ、パオラさんは確信している。パオラ・レンティの家具は決して安くはないが、それには明確な理由がある。

1. 素材からリサーチし、目に見え

ない部分に時間とコストがかかっていること。椅子に用いるスチールの脚は、潮風でも錆びないヨット用の素材を採用している。

2. 色が長持ちすること。屋外に置いておく必要のないよう研究開発し、製品はマーケットに出す前に徹底的にテストする。

3. 100%メイド・イン・イタリアであること。才能のある職人たちが大切にしたいと、海外の下請けを使わず、サプライヤーは国内の工場。製品化は本会社に併設した工場で行われている。工場での仕事は、縫製から組み込みまでほとんどが手作業だ。10年以上、アウトドアの家具を手がけてきて、今後は、この経験を再びインドアで実現したいとパオラさんは語る。屋外と室内をトータルでつくること。いずれは「家具」という言葉さえ必要でなくなるのかもしれない。

自分の家には小さなテラスさえないのだけれど……と云うパオラさんは「人は必要なものだけ持てたら幸せ。物の美しさと魂の美しさは分けられないのよ。」

interview with PAOLA LENTI

パオラ・レンティ代表 パオラ・レンティさんインタビュー



Profile / Paola Lenti

パオラ・レンティ 1958年イタリア生まれ。ミラノ工科大学でブルーノ・ムネーリからデザインを学ぶ。80年代初期にグラフィックデザイナーとして活動。1994年にパオラ・レンティを設立。自身がクリエイティブディレクターを、姉のアンナさんがマネージングディレクターを務める。

チームワークから生まれる家具

この美しい家具をつくる人はどんな人なのだろう——パオラ・レンティの家具を見て、そう思っている人は多いのではないだろうか? 一度見たら忘れられない鮮やかな色、屋外家具とは思えないエレガントな雰囲気。

ミラノの郊外、メダの本社の屋外ショールーム。「私はデザイナーではありません。パオラ・レンティの家具はチームから生まれるのです。それがパオラ・レンティさんの最初の言葉だった。色や素材のリサーチや開発は、大学の研究室や専門のプロのサポートを受けながらスタッフみんなで関わる。あくまでチームワーク。だが色のバランス、世界観——それ

はパオラさんだけができること。「色の表現は、Happyなことです。色は自然の中にあります。一色では表現はひとつだけれど、何色か組み合わせると、さまざまな受け取り方ができる色が生み出される。色の組み合わせや、セレクトをするときは魂がきれいな状態でないといけません。色は私の気持ちを伝えてしま

共通のフィロソフィは「ハルモニア」と「和」

色・素材が決まったら、それを生かしてくれるデザイナーを選ぶ。長年一緒に仕事をしているフランチェスコ・ロータやパトリシア・ウルキオラなども含め、複数のデザイナーからセレクト。構造やデザインは任

せるが、パオラさんはクリエイティブディレクターとして、プロセスすべてに関わる。

「チームでやるためには共通のフィロソフィ(哲学)が必要。そのフィロソフィとは、ハルモニア。和です。チームでやっているとお互いのフィロソフィややり方が一瞬解け合って、ひとりの人、のようになることがある。それが、和。なのだ

屋外と室内の家具のデザインは

ボーダレスにつながっている

Factory

ファクトリーでは服をつくるように
手仕事から家具が生まれる

色とりどりの糸や布が集まる様子は、縫製工場のように！
2009年に完成したファクトリーでは、パオラ・レンティの
ほぼすべての商品が製造されている。オフィスと工場は隣接。
その近さが開発スピードと技術力の向上につながっているという。
ユニットごとに、糸と針を手にした職人がていねいに家具を
組み上げていく。「メイド・イン・イタリア」の信念が表れた場所。
手間を惜しまないその姿勢が、人を包み込む温かな家具を生む。



8 ラグの製造過程でしつけ糸を取り除く地道な作業。9・10 仮にロープを巻いて形をつくり(10)、ミシンで1本ずつ「ロープ」を留めてスツールをつくる(9)。11 ラグや家具に使われている「ロープ」。清潔な工場内に鮮やかな色の糸や織物が積み上がる。パオラ・レンティが使われている特殊素材「ロープ」や「アクアテック」は紫外線や塩素、海水などによる変色や伸縮がなく、屋外使用にも耐える。



11

Inside Furniture



5

5 室内家具と屋外家具、共に独自に開発した素材と鮮やかな色を採用。優雅な世界観をつくり上げている。ソファ「スマイル」では、ウレタンの本体を船用に加工されたポリエステルニットでカバー。収納家具もファブリックで表面を覆い、やわらかな印象に。6 新作の「シト」は上のフタを外すと内部に小物を収められるスツール。何色もの糸を織り上げ、独創的なファブリックを製造。7 カバーリング式のソファ「ムーヴ」。クッションで色合わせを楽しみたい。

7



Outside Furniture



1 天井と壁部分に好きな素材を選ぶユニット式テント「カバヌヌ」があれば、庭がもうひとつの部屋に。グレーのソファ「アイランド」と黄色のチェア「アフラ」の色の対比がおしゃれ。
2 テーブル付きのユニークな新作パラソル「ビストロ」。チェック柄という服のようなデザインと丈夫さを兼ね備えているのが、パオラ・レンティの魅力。3 「バビリオン」は六角形のパネルで構成された斬新なテント。特殊アルミニウムを使い、軽やかで建築的なデザインを実現。
4 鉢植えを入れるだけで緑の壁が出現する「グリーンアリー」。自動灌水機能や水受け皿付き、室内でもOK。ミントやイチゴを植え、見た目も香りもさわやかなハーブウォールにしていた。

2

パラソルのもと、グリーンに囲われたアウトサイドリビング。ジェルバゾーニの屋外用のソファが、室内のようなリラックス感をつくり出す。



三方を壁に囲まれたテラス。
その中央に大きなパラソルを広げると
天井の代わりに、部屋のような雰囲気
が生まれます。センターテーブルを
傘の真下に置き、それを囲むように
ソファやパーソナルチェアを配置します。
このテラスは芝庭なので、
目線の高さにも緑があるように、壁際や
コーナーに鉢植えのグリーンを。
季節の花でテラスに彩りを加えましょう。

オーディオ 参考商品(ボーズ)
スロー ¥68,000 (エ インテリアズ)
グリーンのプランター ¥5,100 (イデオショップ 東京ミッドタウン店)

DAY
time

大きなパラソルで「部屋」にする



エタノール暖炉、キャンドル、ランタン…、夜のテラスの主役は「明かり」です。大きなバラソルを外して、壁のセンターにある暖炉とセンターテーブルを囲むように、ソファのパーツやチェアを配置。くつろぎの場の近くには必ず明かりを。さらにテラスに暗い場所がないよう、高低差をつけて明かりをちりばめましょう。植栽にランタンを吊り下げると、木の影が壁に映り幻想的になります。

NIGHT
time

暖炉・照明・キャンドルで光を点在させる



▶▶
プランタースタンド
¥150,000
 1890年代に英国でつくられたヴィンテージ。
 錆びたアイアンの質感がラスティックな印象。
 W2150×D350×H850mm
 (ハウス オブ フェールトラヴァイユ)



▲ バオラ レンティ
 ▲ **ローテーブル「ヘロン」**
¥272,000～
 天板が取り外せ、持ち運びも簡単なテーブル。
 凸凹のある大理石の天板が外の雰囲気に合う。
 φ850×H270mm(アルフレックスジャパン)

▼ バオラ レンティ
スツール「シェル」
¥356,000
 紫外線などで変色しない独自開発のローブを使用。
 しっかりと安定感のある座り心地。
 φ850×H250mm(アルフレックスジャパン)



▲ バオラ レンティ
 ▲ **ローテーブル「サンセット」**
¥334,000～
 屋外家具で珍しいローテーブルは、
 ステンレスと木を組み合わせたシャープなデザイン。
 W1200×D800×H140mm(アルフレックスジャパン)

▶▶
 バオラ レンティ
サービステーブル「ストラップ」
各¥115,000

中央のひもがキュートなサービステーブル。
 持ち手代わりに使えば、移動も簡単。
 (右)φ450×H300mm (左)φ450×
 H400mm(2点共アルフレックスジャパン)



◀◀
 バオラ レンティ
ローバックチェア「バイア」
¥392,000～(シートクッション込み)
 ローブを編み込んだチェアは、
 シートクッション付きで座り心地も快適。
 W700×D820×H570・SH320mm
 (アルフレックスジャパン)